



かがやき



2021.2.19
第5号

編集発行／公益社団法人新潟県看護協会 上越地区支部

支部長あいさつ

新潟県看護協会 上越地区支部長 佐藤 美喜子



令和元年度より支部長2年目となりました。会員の皆様におかれましては、上越地区支部協会の活動、運営にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症という未曾有の出来事が襲い、先行きの不透明な昨今、医療現場では医療従事者の方々が自らの感染リスクの不安を抱えながら日々奮闘する姿があり、弛まない尽力がコロナ禍の人々を支えています。私たちの日常の過ごし方も変わらざるを得なくなりました。いままでの常識が常識でなくなったコロナ禍、医療・看護の現場も刻々と変わる事態に迅速かつ柔軟な対応を迫られています。

当上越支部においても総括としての一年の重要な地区支部集会是略式で行われ、今年度計画していた研修や事業はすべて次年度へ見送りという、かつてない対応の年となってしまいました。また、診療報酬改定の年度にもあたり、看護実践が評価され新設された項目や加点された項目もありますが、大きく変化する中で看護職に求められるニーズも多様化し、これからはそれらに添えていかねばなりません。2025年を目前にし、さらに2040年を見据えた社会の動向を捉え、看護職が果たす役割を認識し、活動することが強く求められます。地域包括ケアシステムの構築では昨年同様、地域の医療、介護、行政、教育等看護に係る職種がそれぞれの専門性を活かし、スキルアップしていけるような支部でありたいと思います。

また、次年度の地区支部総会の記念講演は、今年度予定していた新潟県労働衛生医学協会専務理事の大西金吾氏を講師にお迎えし、コロナ禍の疲弊した看護職が少しでも前を向いていくパワーを持つ講演をいただけるものと期待しております。多数の皆様のご参加をお待ちしています。



コロナ禍での看護

◆助産師職能委員会

昨年令和元年度の助産師職能研修会は、周産期のメンタルケア「産後うつを中心とした対応」をテーマに開催し、助産師だけでなく保健師の参加もありました。産後うつは、母子関係障害や虐待等の関連性が明らかになっており、産後の母親の対応は、助産師、保健師の関わりが重要だと考えています。今年度は助産師・保健師職能合同で周産期メンタルヘルスにおけるカウンセリング技術のスキルアップを目的として、「地域につながる産後のメンタルヘルス」の研修会開催を予定しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度の研修会開催は中止とさせていただきます。研修会を楽しみにして下さった皆様には、残念な結果となりました。来年度の研修会開催に向けて準備を進めていく予定です。

また、今年度は定期的な委員会を開催できないこともありましたが、開催時には各施設の新型コロナウイルス感染症対策への取り組みや患者受け入れ体制等の現状についての情報交換を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための面会禁止は、出産後の母子も例外ではなく実施されています。また、立ち会い分娩は全面禁止で父親が我が子と対面できるのは、生後数日を経た退院の時というのが現状です。このような制限された状況の中で、頑張ってきた妊産婦さんが新しい命を育む過程に、助産師として耳を傾け見守りケアを行っています。家族が一日も早く新しい生命の誕生を共に喜び会えるように、新型コロナウイルス感染症の終息を願うばかりです。

コロナ禍において私たち助産師は、これまで以上に感染対策を行いながら妊産婦さんが安心して出産・育児が出来るように、一人一人に寄り添い支援を行っていきます。

助産師職能委員長 中村比佐枝 (糸魚川総合病院)

◆看護師職能委員会

新型コロナウイルス感染症が全国各地で猛威をふるっています。新しい生活様式が浸透されている一方で、病院での医療提供環境を劇的に変化させることは困難です。そこで医療従事者である私たちの感染予防対策が重要となります。

当院では、適切な手指衛生や必要に応じた个人防护具の選択などの標準予防策を中心とした施設内における感染対策の徹底と、健康チェックや面会制限などウイルスの持ち込み防止対策を行っています。加えて患者様、職員に関わらずソーシャルディスタンスを意識した行動に組み込み、院内にウイルスが持ち込まれても広げないようにしています。さらに環境清拭のタイミングや手順の適正化をはかり、感染予防に努めています。

その最中に起きた職員の感染という経験は、新型コロナウイルス感染症が身近に迫っていることを実感するものでした。多くの方々に不安を抱かせ迷惑をかける結果となり、影響の大きさを痛感しました。幸いにも感染の大きな広がりを防ぐことができ、日頃から感染対策を行う意義も感じました。

地域の皆様が安心して当院での診療を受けられるように今後も感染対策を継続し、この状況を乗り越えるために努力していきたいと思っています。

看護師職能委員長 小関 千鶴 (上越総合病院)

◆保健師職能委員会

コロナ禍での保健活動を紹介します。

昨今のコロナ禍においては感染症予防が最優先となり、今年度の保健活動は大きく一変しました。保健師の活躍のフィールドは様々ですが、今回は市町村の保健活動を中心にご紹介します。

市の保健事業は集団健診を皮切りに活動が開始されますが、4月に初めて上越地域に陽性患者が確認されたことを受け、前年度から計画していた健診の日時や会場すべてを延期・変更し、密を防ぐため人数の制限や、完全日時指定で実施することとなりました。受付では検温や手指消毒を行い、マスクやフェイスシールドを着用する等、徹底した感染対策に努めています。

また、健診後の保健指導では、集団教育を個別対応に切り替え、時に対象者を絞って実施しています。その中でもできるだけ多くの市民が、自身の健康に関心が持てるよう啓発に努めるとともに、特に健診結果に不安のある方や生活習慣病の重症化が心配される方等については、丁寧な結果説明に注力し、個々に応じた支援を心がけています。

保健活動も下期に入り、事業自体の見直しは立ち始めましたが、依然として新型コロナ感染症の収束が見通せない中、地域の課題としては、活動不活発によるメタボやフレイルの増加、経済的不安や通いの場の縮小等による心の不調の増加等が懸念されますが、密を避けるため地域を基盤とした健康づくりや、関係機関との連携が図りにくい状況にあります。

ただ、マイナス面にだけ目を向けがちですが、長年実施してきた保健事業全体を見直すよい機会となりました。今後は新しい生活様式に適したより良い保健活動が展開できるよう力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

保健師職能委員長 丸山 早苗 (妙高市役所)



健診受付用手指消毒



集団健診の待合風景

2021年度 通常集会および 記念講演会 のご案内

通常集会:日時 2021年6月26日(土) 13時30分～
記念講演:日時 2021年6月26日(土) 14時30分～16時
「いつもところに愛と夢を」
～きらり輝く明日に向かって～

講師 大西金吾先生
一般社団法人 新潟県労働衛生医学協会 専務理事
会場 上越市市民プラザ
問い合わせ先 新潟労災病院 看護部長 佐藤 (TEL 025-543-3123)



大西金吾先生プロフィール
・1948年(昭和23年)生まれ
・新潟県南魚沼市(大和町)出身
・専修大学 文学部 人文学科 卒業
・中学、高校、大学とスポーツ(野球・スキー・陸上)を愛好し、各種大会に参加

新潟県ナースセンターのご案内

平成28年3月に相談窓口が上越に開設されました

★ナースセンターとは★

- 無料の職業紹介
- 相談員によるアドバイス
- 復職のための研修

看護職の免許を持ちながらも看護に携わっていない方、子育て等で仕事を中断されている方で再就職に不安がある場合など、看護経験者が相談にのります。気になる施設等の見学の橋渡しをしています。ハローワークとも連携しています。再就職をお考えの方はお気軽にご利用ください。

○上越相談窓口のご紹介

会場 上越市市民プラザ2階 (上越市土橋1914番地3)
開設日時 毎週 火・水・木曜日 (第3水曜日は休み) 午前10時～午後3時まで
連絡先 相談員看護師 渡辺礼子/長谷川ヒデ子
TEL 070-2175-6014
固定電話 025-520-7475 (時間内のみ)
FAX 025-520-7476



気軽に相談下さい。

e-ナースセンターへ登録を

(看護師等無料職業紹介サイト)

- 求職者と求人側(病院・施設等)の方に無料の職業紹介をしています。e-ナースセンターに登録して下さい。(県看護協会のHPより入れます)
- 就業相談や就学中の悩み、キャリアアップ等についてもご相談受付中!
- 求人側のご連絡もお待ちしています。ハローワーク同様にナースセンターへもお問い合わせください。

看護職でまだ入会されていない方、入会をお待ちしています。入会希望の方は、下記までご連絡ください。

公益社団法人 新潟県看護協会
TEL 025-265-1225
FAX 025-265-1199

各職能の活動や、その様子などぜひご覧下さい。

https://www.niigata-kango.com

上越地区支部1,695名の仲間活動中(令和2年10月9日現在)